

授業探訪

「授業支援システム」

どのようなことができますか？

学内に授業支援システムが3つあるのをご存知でしょうか。1つは“Course Navi”という数年前から情報メディア教育センターの教育システムとして提供されているもので、e-Learningを学内外で実現することができます。次は2年前に導入された“Edu Canvas”というA304、A333、C310教室に設置されているもので、パソコンを活用しながら授業を進めること、授業内容をネットで配信、再現することができます。最後の一つは英語担当教員が独自に運営するもので、TOEIC学習システムです。それらを利用している授業を表1にまとめました。

表1 教育支援システムの利用状況

	授業名	教員	特徴
Course Navi	情報メディア基礎	石田、石坂、早坂先生	レポート課題、ミニ試験、ビデオ映像、出欠管理など
	実用材料学	桑野先生他	レポート課題、提出など
	材料科学A演習	桑野先生	作図、エクセル演習 レポート課題、提出など
	技術者倫理 (独自運用)	鈴木(好)先生	講義を補完する内容の自習 (試行段階)
Edu Canvas	基礎理科B (認定テスト不合格者)	大平先生	パソコン上で授業を受ける (画像、音声)
	電気電子材料	伊藤(秀)先生	PP画像をもとに、ホワイトボード感覚のタブレットで進める。
Net Academy	TOEIC英語検定	島田(武)先生	ALCのTOEIC学習システム 初級・中級コース 参加600名



調査漏れはご連絡ください。

Course Navi :

授業内容をシステムに乗せるにはPowerPoint、WORD、HTMLなどを使います。授業を画面上で進めますが、どちらかというと本学ではレポート課題、レポート提出、進捗状況の管理、成績管理などに活用している例が多いようです。完全なe-Learningシステムを構築できる多機能システムですが、そこから教員自身が授業に必要な項目を取捨選択し、システムを作れるセミオーダーが魅力です。登録された学生はそれらをネット経由で取り出し、自分のペースで学習を進めていきます。

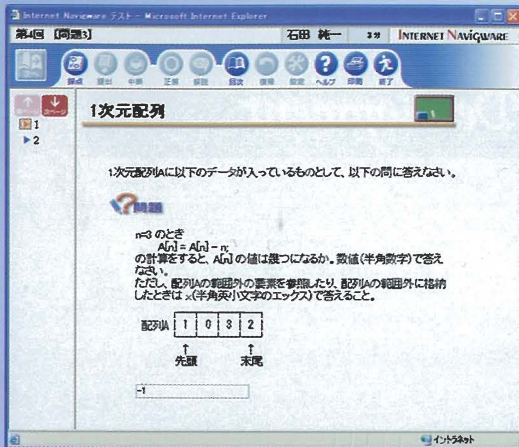


図1 情報メディア基礎の画面サンプル

Edu Canvas :

なによりも様子を見てもらいましょう。

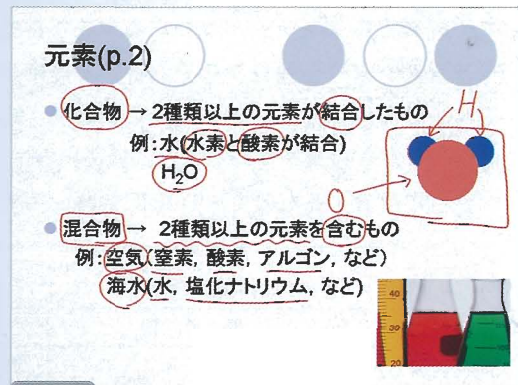
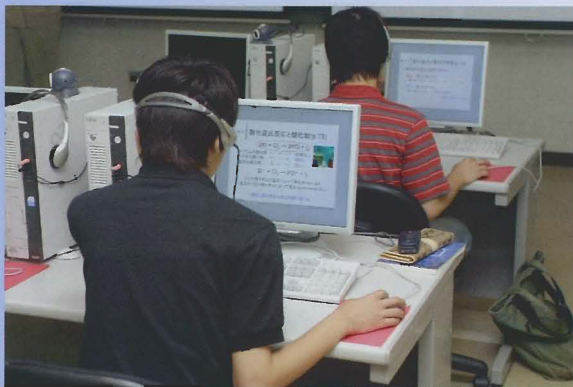


図2 基礎理科(化学)の講義風景です。素材は架空の学生を前に講義を15回したものをもとにしています。

EduCanvasは教室での利用が前提として作られています。講義はタブレットを使い、事前に作成したPowerPointなどを活用し進めます。タブレットですから書き込みもでき、プロジェクターで映せば板書になります。「講義中の魅力は、学生に背を向けることなく真正面でタブレットが使えることです(伊藤先生)。」こうした90分の授業が音声とともに1つのファイルにEduCanvasが記録してくれます。講義後、復習したい学生、欠席した学生が、講義を等速にも早送りにも確認できます。つまり復習を自分のペースで何回でもできるのです。

以上の2つのシステムは、メーカーも違いますが、学内では連携しています。つまりEduCanvasを使うときは情報メディア教育センターのホームページからCourseNaviを経由し利用します。再生ソフトは無料でダウンロードします。

Net Academy :

平成16年度教育設備充実経費でN304に導入されたTOEIC検定英語に特化したシステムです。本学の学生が、TOEIC初級(500点)、中級(600点)を目指したら「TOEIC検定英語」に登録し、卒業までに20時間以上をこのe-Learningシステムで学習し、実際の検定を受け、点数を自己申告すれば認定される個性のある科目です。平成18年度はTOEICの改定にあわせて、システムを更新する計画です。

e-Learningと言えば、MITや東大が授業を次から次へとネットで公開することや、教員不在の冷たいシステムと思われる方もおられますが、本学ではシステムの個性を生かし、授業に豊かさを与えているようです。「ちょっと使ってみるか」を期待しています。

副専門教育課程のカリキュラム改革について

平成18年度より副専門教育課程のカリキュラムが大きく変わりました。ご承知の通り、本学では「専門分野に偏ることなく広い視野に立つ総合的価値判断能力を備え、深い見識を身に付けさせる」との目的から、副専門教育課程を設けています。この目的のもと、幅広い知識を修得するだけでなく、主専門以外の分野でも「積み上げ式」で研究を深めていこう、というのが本学副専門教育の特徴です。工業大学で4年生に文科系科目の少人数ゼミが開かれているというのは、全国でも稀ではないでしょうか。しかし近年、国際化への対応として語学教育の全学化と強化、広範な視野の必要性が一層強く要請されるようになりました。

本年度からのカリキュラムは、本学の副専門教育課程の特徴を維持しつつ、新たな要請に応えようというもので、共通科目とコース別科目とで構成されます（下記図参照）。共通科目は、外国語科目、スポーツ等の実習を中心とするデザイン科目、基礎的だが広い視野を養おうとする主として1単位の教養基礎科目からなります。そして学生は、2年進級時に〈環境と社会〉〈市民と公共〉〈人間と文化〉〈思考と数理〉の4つのコースのいずれかに属し、コース別科目を履修することになります。コース別科目には、どのコースも文科系科目と理科系科目を配置することでJABEEへのスムーズな対応も可能にしています。また4年次に少人数のゼミを設けることで、一つのテーマについて仕上げを計ります。たとえば1年次に教養基礎科目「経済のしくみ」を履修して経済に興味を持った学生が、〈環境と社会〉コースに属することで、2年で「経済事情」、3年で「環境経済論」、4年で「ゼミナール『環境と社会』」を受講するならば、経済について相当深く学ぶことができるでしょう。他方、他コース開設科目の履修をできる限り可能にしていますので、「様々な学問分野に接したい」という学生の要望にも応えることができます。

このような改革について、全学共通教育センターの二宮公太郎センター長は、「今回のカリキュラム改革は、領域別副専門からテーマ別副専門へ、文理融合の可能性も拓く副専門制度の新しい展開である」と述べています。カリキュラムのあり方は、時代の要請を受けて絶えず見直しつつも、本学の独自性は、しっかり維持・発展させていきたいものです。

副専門教育課程の科目構成

共通科目

- ・外国語 英語・第二外国語
- ・デザイン科目 文学創作演習、社会体験実習、スポーツ実習、海外語学研修、異文化交流…
- ・教養基礎科目 インターサイエンス、日本の憲法、哲学入門、現代の社会、環境科学入門…

コース別科目

- ・環境と社会コース 環境経済論、社会環境論、自然再生論、地球環境化学…
- ・市民と公共コース 基本的人権論、日本近現代史、国際関係論、医の科学、環境と資源…
- ・人間と文化コース 人間と文学、現代心理学、青少年と文化、行動の科学、感性の科学…
- ・思考と数理コース 自己理解のサイエンス、認知科学論、科学と倫理、数学考究…

「第3回室蘭工業大学教育ワークショップ in 洞爺」を開催

今年で3回目となる室蘭工業大学教育ワークショップが、9月28日（木）・29日（金）の2日間にわたって、洞爺パークホテル・天翔にて開催されることが決まりました。

過去2回のワークショップで、「世代間の連携が得られる」「経験交流は役に立つ」「シラバス作りは有益である」など室工大FDの特徴としての“ボトムアップ&エンジョイ方式”が確立されようとしています。一方で「ワークショップで何を求めているかが参加者に伝わらなかった」「質を深める部分にはより多くの時間を配分すべき」「形式的な挨拶は避けるべき」などの反省点も明確になってきています。これらの反省を踏まえて、今年は「学生をひきつける授業をつくる」をテーマとして、シラバス作りを通して各教員の授業改善のための活発な議論・交流を行うことを企画しています。

今年の参加者は、新任教員9名と各学科・共通講座から2名ずつの合計23名の研修者とFDWGメンバーを含む9名のTF、および学長または理事、副学長、教務課職員の合計37名となる予定です。

FDワーキンググループの活動計画

FDワーキンググループは、本学教員の教育力向上を目指した各種活動を行うために、教育システム委員会の中の作業部会として設置されています。今年度は、以下の4つの活動を計画しています。全学の皆様からもFD情報、ご意見、ご要望を是非お寄せいただくとともに、FD活動へのご協力をお願いします。

1. 第3回室蘭工業大学教育ワークショップの開催
2. 講演会の開催
3. 広報誌「FDだより」の発行
年2回の定期発行と特別号の発行を予定しています。
4. 教育環境と設備に関する全学アンケート

なお、今年度のFDワーキンググループのメンバーは下記の構成となっています。

委員長	中川一夫
副委員長	安居光國
委員	濱 幸雄、藤木裕行、塩谷浩之、奥野恒久
教務課	松本典久

委員長あいさつ

平成18年度のFDワーキンググループの委員長を仰せつかりました。大学にとっては何かと落ち着かない時期をむかえております。数値では表せない大切なことを見失わないよう、本学が培ってきた良さを生かした室工大らしいFD活動を目指し、皆さんと共に地道に努力していきたいと考えております。

広報FDだよりのバックナンバーは大学ホームページからご覧になれます。

URL : <http://www.muroran-it.ac.jp/kyomu/FD.html>

編集後記

「教えるとは、希望を共に語ること」とは、アラゴンの言葉。ふと自らを省みると、日々、ただただ準備と授業と業務に追われ、希望を語る余裕などほとんどない。学生たちも忙しそうだ。もはや大学は、希望を語る場ではなくなったのだろうか。

今年のFDワークショップのテーマは、「学生をひきつける授業をつくる」。テクニカルな議論だけでなく、魅力ある授業とは何かを改めて模索したい。